

5 自己点検評価シート3

大項目 教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務
 中項目 政策:生涯学習ネットワークの整備充実
 施策:生涯学習システムの拡充

担当課 生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
生涯学習講座拡充事業	10,344千円 ・市民がいつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができるように様々な生涯学習講座(71講座)を開催した。 延べ参加者数 2,552人(大人1,712人、子供840人) ・親子の教室:ラジオ作り・陶芸教室・ケーキ作り教室・夜会等 ・教養講座:大学連携講座(都留文科大学、山梨県立大学) ・パソコン講座 ・趣味の講座:春、秋の自然観察教室・寄せ植え作り教室・キムチ作り教室等 ・映画鑑賞会:夏、春休み子ども映画会・秋の映画鑑賞会	3.8	生涯学習講座は多様性と内容の充実を図り参加できるように工夫された結果、多数の市民の参加を得た。参加市民からも好評である。 生涯学習課、文化財課、図書館、美術館が連携した講座の実現が望まれる。
生涯学習ネットワーク整備事業	0円 ・市の広報誌で講座開催に関する情報提供を積極的に行なった。 ・市の広報誌を利用して、市内の方で豊富な知識・経験・技術を有し、生涯学習指導者として登録していただける方を募集し、生涯学習人材バンクに登録してもらった。 生涯学習人材バンク登録数(H20年度末現在)個人50名 団体11団体 うちH20年度新規登録数 個人2名	3.4	

中項目 政策:生涯学習ネットワークの整備充実
 施策:生涯学習システムの拡充

担当課 市立図書館

小項目	実績	評点	点検評価
図書館活動による生涯学習支援提供事業	712千円 市民が自主的な学習活動ができるよう、講演会や各種講座を開催した。 講演会(坂東眞理子氏)316人、教養講座(3回)延べ60人、農業講座13人、環境講座8人、朗読入門講座(5回)延べ61人、読み聞かせ講座(3回)延べ15人の参加者があった。また、子どもを対象とした手作り絵本講座、子ども読書まつり、夏休み人形劇、読書フェスタ、工作教室、科学実験あそび、クリスマス会等には、延べ2,422人の参加者があった。 図書館講演会は毎年多くの参加者があり好評を得ている。各館の特色ある講座については、例年に比べどの講座も多少ではあるが参加者が増えている。これからも、講座の内容や開催方法を見直し、多くの方が参加できるように実施していきたい。また、広報や図書館のホームページ、ポスター等により啓発に努めていきたい。	3.8	子どもを対象とした事業、大人を対象とした事業とも内容を工夫するとともに、多くの参加者を得るための取り組みも計画的に行う中で実施している。その結果、参加者は増加傾向にある。 参加者の多くが、次の事業を楽しみにしている状況もあり、市民の学習ニーズに応えることができた。 啓発のための努力が顕著。

小項目	実績	評点	点検評価
ブックスタート事業	<p>907千円</p> <p>南アルプス市で生まれたすべての赤ちゃんに、健康増進課で実施している4ヶ月乳児健診の会場で、ミニおはなし会(てぶくろ人形・絵本の読み聞かせ・わらべうた)を行い、絵本とおおすすめ本の小冊子、図書館の案内等が入ったブックスタートバックを手渡している。絵本の読み聞かせが、赤ちゃんの言葉と心の成長に欠かせないものであり、保護者にとっても心安らぐ楽しいひとときであることを伝え、家庭における読書活動を勧めている。</p> <p>年間24回実施 対象乳児数599人(平成20年1月から12月生まれの乳児)</p> <p>この事業に対して1歳6ヶ月健診児の保護者にアンケートを実施したところ、「喜んで何度もめくって一緒に読んでいます。」「プレゼントの本は今も好きでよく見えています。」「どんな本が良いのか参考になりました。」等好評を得ている。</p>	4	<p>子どもの成長にとって読書の必要性、大切さを伝えることができた。また、保護者に読書に対する興味、関心、意欲を喚起することができた。</p> <p>好評を得ており、素晴らしい企画。取り組みの成果は大である。</p>
子どもの読書活動推進計画推進事業	<p>0円</p> <p>平成13年に制定された「子ども読書活動推進法」をうけて、本市のすべての子どもたちが、自主的に読書活動を行うことが出来るよう読書環境を整備すべく、「南アルプス市子ども読書活動推進計画」を平成18年度に策定した。この計画を実際に推進していくためには、公立図書館だけでなく、家庭や学校、地域で取り組むことが必要であることから、平成19年度に「南アルプス市子どもの読書活動推進協議会設置要綱」を策定した。今年度は、この設置要綱に従って協議会を発足させた。協議会委員には児童生徒保護者、ボランティア、小中学校教師、学校司書、行政の各代表12人を任命した。2回の会議を開催し、市内の子どもの読書環境の現状と今後の取り組みについて話し合った。</p>	3.2	<p>歩み始めたばかりの事業であるが、子どもたちの読書活動を推進するために協議会委員を中心に、市内各種の団体、機関、組織等と連絡を図りながら着実な取り組みとした。</p>

中項目	政策:生涯学習ネットワークの整備充実 施策:生涯学習拠点の整備充実	担当課	生涯学習課
小項目	実績	評点	点検評価
生涯学習施設管理事業	90,041千円 ・市の生涯学習を推進していくため、積極的に指定管理者制度の導入を図り、生涯学習施設の効率的な運用を推進した。また、施設の維持管理に努め、常に市民が利用し生涯学習の場を提供した。 八田高度農業情報センター(指定管理)(21,057千円、20,817人) 白根生涯学習センター(6,049千円、15,322人) 白根コミュニティー館(1,130千円、4,021人) 若草生涯学習センター(指定管理)(11,521千円、57,754人) 櫛形生涯学習センター(指定管理)(23,610千円、28,573人) 甲西農村環境改善センター(指定管理)(8,960千円、29,382人) ふるさと天文館(842千円、170人) 櫛形北地区農村環境改善センター(指定管理)(10,198千円、7,681人) 櫛形西地区農村環境改善センター(指定管理)(2,438千円、12,060人) 働く婦人の家(指定管理)(4,236千円、34,676人)	3.6	地域の拠点となって「場」を提供している。

中項目	政策:生涯学習ネットワークの整備充実 施策:生涯学習拠点の整備充実	担当課	図書館
小項目	実績	評点	点検評価
図書館資料充実事業	21,200千円 住民の学習要求の多様化・高度化に伴い、最新の資料や情報を整備し、資料提供によって住民の学習意欲の喚起や読書の普及を図った。 図書購入冊数12,310冊(蔵書冊数282,831冊) 視聴覚資料購入数197点(蔵書点数7,109点) 地図購入47枚 住民一人当たりの資料数3.98冊 館外貸出冊数470,674冊(昨年度より636冊の増、住民一人当たり6.46冊) 新鮮で魅力ある情報を住民に提供できるよう、各館の職員全員で資料を選定し、週1回担当者による選書会議で検討した上で、地元書店組合から購入している。市内図書館の資料が、幅広い蔵書内容になるよう努めている。	3.4	市民の学習要求に応えるための資料や情報提供を行うための環境や資料の整備を計画的に行った。 蔵書数については文部科学省の「これからの図書館像」による人口に応じた蔵書基準を若干下回っているため、今後努力が必要。 購入する蔵書内容に工夫あり。

小項目	実績	評点	点検評価
市立図書館と地域とのネットワーク化事業	<p>14,903千円</p> <p>利用者は1枚の図書館利用カードで全館から貸出、返却、予約等ができる。また、携帯電話や自宅のパソコンから図書館のホームページにアクセスし、資料の検索や予約、新しい情報を得ることができるよう、図書館ネットワークシステムの整備をおこなっている。</p> <p>今年度は、利用者からの質問や調査事項に応じたレファレンスの事例を17件追加更新した。図書館ホームページからの資料予約数4,458件。おすすめの本の紹介を30回実施した。メールマガジン登録者に、司書のおすすめ本や図書館のお得情報、地域の情報などを載せたメールマガジンを毎月1回送信した。(メールマガジン登録件数162件、平成21年3月31日現在)</p> <p>市内図書館に返却された資料(図書・雑誌)や予約資料は、メール便によって各館に配送されている。6月からは市役所メール便が回らない土曜日、日曜日のいずれかの1日を、図書館独自で回り、資料を配送している。</p> <p>回送される資料がだんだん多くなっていることから、複数の図書館を利用している利用者が増えていることがわかる。図書館ホームページからの資料予約数も昨年に比べ26.7%増になっている。</p>	3.8	<p>本事業は、市民が図書館をより利用しやすくすることにつながっている。</p> <p>図書館ホームページからの資料予約数も大きく増加しており、有効性が感じられる。</p> <p>市民に大いに活用されることで学習ニーズも満たしている。また、市民が抱いている従来の図書館というイメージを大きく変えることができ、図書館と市民の距離を近づけることにもつながった。</p>
市立図書館施設充実事業	<p>479千円</p> <p>今年度は、甲西図書館と白根桃源図書館を整備した。甲西図書館のおはなしコーナーに仕切り用のカーテンを設置し、落ち着いた雰囲気の中でおはなし会ができるよう整備した。また、入り口通路の蛍光灯安定器を取替えた。</p> <p>白根桃源図書館は、書架(新書用ラウンドケース)を購入し、また、事務所内のジュウタン修理を行った。</p> <p>各図書館とも蔵書収容スペースが少ないため、収容冊数に限界がある。特に閉架書庫が手狭になってきており、保存スペースの確保が必要となってきている。</p>	3.2	<p>ネットワーク化の中で蔵書整理をもっと進める。</p>

中項目	政策:学校教育の充実 施策:次代を担う人づくりの推進	担当課	教育総務課
小項目	実績	評点	点検評価
教職員住宅維持管理事業	94千円 昭和61・63・平成3年度へき地等小・中学校教員住宅建築費県補助金を受け3棟12部屋を建設した。本市における学校教育を振興するため、赴任する教職員の居住施設として教員住宅を設置しているが、近年施設の老朽化が著しく当該施設の緊急的な修繕等維持管理を実施した。事務事業評価により、現在は新規入居を実施していない。	2.8	現在入居者がいない。早期に対策を。老朽化が激しいので早急に撤去する必要あり。
小学校・中学校教育系パソコン維持管理事業	6,850千円 全ての教室であらゆる授業において、児童・生徒並びに教員がインターネットを活用できる環境整備を推進するものである。 維持、管理事業としては、教育系ネットワーク及び教育用パソコンシステムの保守管理業務を一括して委託し、安定して稼動することができた。また昨年度に比べ109千円の経費削減を図った。 ・教育用パソコン修繕業務 ・教育用パソコンシステム保守業務 ・教育系ネットワーク保守業務	3.8	情報教育の推進、充実を図るため保守管理業務を一括して委託したことで安定稼動を保持。
小学校・中学校教育系パソコン更新整備事業	19,950千円 新学習指導要領(h14～)のもとで情報教育を充実し、IT基本法に基づきi-Japan重点計画により学校教育の情報化を図る。全ての教室であらゆる授業において、児童・生徒並びに教員がインターネットを活用できる環境整備を推進するものである。整備にあたっては、南アルプス市教育系パソコン整備計画を策定し、平成17年度より計画的に整備するもので、第1次整備計画により整備更新している。H20年度については中学校2校のみの整備となった。 ・中学校(巨摩中・御勅使中)のシステム機器更新を行った。 (ノートPC162台、デスクトップPC4台、カラーP5台、モノクロP4台)	4	計画どおり更新できた。次年度以降も着実に進めていく。活用技術対策は必要。
学校給食一般管理事業	2,439千円 ・学校給食費の徴収事務を行った。 ・毎月口座振替不能者には未納通知を学校を通じて送付、折に触れ納付の勧告も行ってもらっている。多数月の未納者については学校給食課で直接滞納整理を行ったが、不況により前年度は99.88%だった収納率が99.59%になってしまった。 ・徴収するための電算が学校給食課単独でしたが、H22年度電算見直しに向けて、統一する方向で準備を進めている。	3	不況等により収納率が若干低下したが、課題は支払い能力があるのに滞納する保護者への対応。教育的配慮をもってより一層の給食費向上に努める。

小項目	実績	評点	点検評価
学校給食助成事業	15,888千円 ・少子化対策、子育て支援を目的として、義務教育課程の小中学校等に在籍する児童生徒が3人以上の世帯に対し3人目以降の児童生徒の学校給食費を助成する事業で、学校給食費完納者に対して年度単位で助成する。 ・対象者336人のところ330人に支給し98.2%の助成率。 ・上位目的の少子化対策の成果は、目に見えてわかることはできないが、100%支給できるように未納者をなくしていきたい。	3.4	対象者からは大変喜ばれ、感謝の声が上がっている。

中項目 政策：学校教育の充実
施策：次代を担う人づくりの推進 担当課 南アルプス教育推進課

小項目	実績	評点	コメント
少人数教育・特別支援教育事業	84,546千円(市単教員33人賃金) ・市単教職員の配置により、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ることにより、基礎学力の向上及び自ら考える力の育成を図った。また、1学級37人以上の小中学校に市単教員を配置したり、複式学級の解消、特別支援教育推進のため障害やその状況に応じた支援員の配置を行った。 ・児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るために、多人数学級・複式学級解消等のために8人、通常学級における特別支援のために25人、計33人の支援員を配置した。(昨年度は30人) ・市内の小中学校において通常学級における特別支援を必要としている児童生徒が増加している。そのため、更なる増員が必要である。	3.8	市単教職員の配置は、本市学校教育の推進充実に大きな役割を果たし、効果は大きい。 近隣他市と比較しても、市単教職員数は少なくない。更なる増員を望みたい。 教育現場は助かっている。 まだ人数が足りない現状あり。 効果的な実践目指して工夫も必要。

中項目 政策：学校教育の充実
施策：生きる力を育む学校教育の推進 担当課 教育総務課

小項目	実績	評点	点検評価
教育委員会関係事務事業	1,463千円 ・教育委員会の円滑な運営を図り、教育行政の基本方針や施策について審議し、決議した。 ・市内小中学校22校の学校を訪問し学校長との意見交換、授業参観、給食試食、施設状況の視察を行った ・教育委員先進地県外視察研修を行った。その他研修会各種行事へ出席をした。 ・教育振興推進のため、その使命と責務に努めた。	3.6	当面する教育行政の課題、あるべき姿等について研修等を通して広い視野から理解を深めるとともに、学校訪問により実態に基づいた学校教育に関わる諸事業の計画展開に対応した。 学校長との意見交換等学校訪問にはもう少し時間をかけたい。

小項目	実績	評点	点検評価
教育委員会事務局組織管理運営事業	10,451千円 ・教育委員会事務局の組織に必要な事項を定めその所管事務を明確にし、教育行政事務の適正と能率的な運営を行った。 ・事務の効率性を高め継続して経費の削減に努めていく必要がある。	3.4	
小林愛則育英奨学会給付事業	800千円 ・小林愛則育英奨学金は、基金を基に将来社会の中核となる優秀な人材を育成することを目的とし給付事業を行っている。 市内の中学校を優秀な成績で卒業し大学進学を目指している高校生に、奨学金を給付する。 ・給付額は、年間一人10万円を1学年3名を限度とし3年間給付する。 平成20年度は8名に授与し、勉学の励みになっている。	4	奨学金の趣旨、目的に基づき優秀な生徒に奨学金を給付。奨学生にとっては勉学の励みに、保護者にとっては経済的負担の軽減につながった。
芦安育英奨学会貸与事業	1,080千円 ・芦安地区から高等学校等に通学するため、奨学金を希望する者に対して月額1万円、年間12万円を貸与する。 平成20年度貸与者は、9名に貸与した。	3.2	他地区とのバランスで存続はいかがなものか。 県内一学区となった。現在の必要性、また審査等に課題あり。返還状況も課題。
就学援助、就学奨励事業	39,628千円 (要保護児童生徒10名、準要保護児童生徒505名、特別支援教育就学奨励児童生徒37名) ・就学に困難な児童に対して、学用品費等を援助することにより義務教育の円滑化を図る。また、特別支援学級に通う児童に対して保護者の負担能力に応じ経済的負担を軽減する就学支援を行った。 ・対象児童生徒の保護者の経済的負担の軽減が図られた。	3.8	年々増加傾向にある。
学校図書館蔵書管理事業	5,687千円 ・学校図書館における蔵書管理を電算システムにより行い、市内全小中学校で蔵書の管理を効率的、体系的に行うとともに、学校間での蔵書の情報共有等の機能を活用することで、学校図書館の充実を図った。	3.6	電算システムにより図書館事務の省力化、効率化が図れた。学校間での蔵書検索や相互貸借も可能で効果的に機能している。
就学時健診事業	1,330千円(健診児童数 797人) ・翌年度就学予定の児童に対して、健康診断等を行い、就学予定児童の心身の状況を把握して適正な就学指導を行った。 ・地区ごとでの健診実施をしているが、実施方法等の統一化が図られていない部分が残っており、統一化を検討していく必要がある。	2.8	なかなか統一が困難。早急に統一を。

小項目	実績	評点	点検評価
安全対策事業(防犯ブザー貸与)	270千円 ・登下校時の安全対策として、市内小学校新生児に防犯ブザーを貸与した。(平成17年度で、小学校全員が保有することになった。) ・入学時に新1年生に900個を貸与することで、登下校時の安全管理を図ることができた。 ・中学生にも貸与の要望が上がってきている。安全管理の面から現状を把握する中で検討をしていく必要がある。	3.2	危機管理の一端としての事業。子どもたちの登下校時における安全確保を図ることができた。 貸与だけでなく使い方の講習など必要。学校によってバラつきあり。
AED(自動体外式除細動器)配置事業	1,579千円 ・学校行事の中でいつ発生するかもしれない、心肺停止による事故への対応を図るため、市内小中学校22校にAEDを配備している。 ・夏季休業中の3日間(8月6～8日)で、市内小中学校の先生方を対象に普通救命講習会を実施し、AEDの使用方法等の周知を図った。	3.6	AEDの配備と併せて普通救命講習を行い、誰でも救命できる体制を整えた。
通学補助事業	769千円 ・遠距離通学をしている児童生徒の保護者に定期代を補助し、経済的な負担の軽減を行った。若草小学校(下今井地区1、2年生 30人) ・遠距離通学を行う児童のバス通学を認めることにより、交通事故や不審者等による事件がなく、安全安心な通学を行うことができた。	3.2	
学校教職員健康診断等委託事業	5,942千円 ・学校教職員の健康診断を行うことで、健康管理体制が充実できた。 (胃検診・結核健診・基本健診・健康相談)	3.6	教職員は職務の多様性から無理をしがちであるので、この事業により教職員の健康管理体制が充実。
学校環境検査委託事業	1,733千円 ・学校において安全に過ごせる学習環境の整備と充実を図るため、室内空気中化学物質検査、ダニアレルゲン測定検査を行った。(各校年1回) ・検査結果に対する各学校の対応状況について、教育委員会において指導等の対応ができる体制づくりが課題である。	3.2	
私立幼稚園就園奨励及び援助事業	13,944千円(22園 277名) ・幼稚園教育を奨励するため、私立幼稚園の設置者に対して入園料及び保育料の減免を行う場合、私立幼稚園就園奨励費を支給した。 ・保護者の経済的負担の軽減が図られた。 ・国の補助事業であるため、各自治体で実施しているが、補助率が1/3以内ということもあり自治体間で所得制限の基準も補助金額も差がある。本市は財政的な理由により所得基準も補助金も国の基準より少ない。	2.8	国の基準になかなか追いつかない。 国の基準で行うべき。

小項目	実績	評点	点検評価
学校管理事業(小学校関係)	182,698千円 ・市内小学校15校の管理運営を行う。児童が安全に伸びやかに過ごせる学習環境の整備と充実を図ることができた。 ・市内15校の管理運営を行うことで、学習環境の整備と充実を図ることができた。(学校修繕料、管理備品の購入、光熱水費、委託料等) ・老朽化の進んでいる学校については、学習環境の整備のための管理費(修繕料)等の経費が必要になる。	3	十分ではないが各校で生かしている。
学校管理事業(中学校関係)	101,455千円 ・市内、中学校7校の管理運営を行う。生徒が安全に伸びやかに過ごせる学習環境の整備と充実を図ることができた。 ・市内中学校7校の管理運営を行うことで、学習環境の整備と充実を図ることができた(学校修繕料、管理備品購入、光熱水費、委託料等) ・老朽化の進んでいる学校については、学習環境の整備のための管理費(修繕料)等の経費が必要になる。	3	
教育振興事業(小学校関係)	90,524千円 ・市内小学校15校の振興運営を行う。特色ある学校教育づくり、総合的な学習充実、教育課程を実施することができた。 ・市内小学校15校の振興運営を行うことで、特色ある学校教育づくり、教育課程を実施することができた。(教材補助、各種検査料、教材備品購入、校外行事補助) ・平成23年度からの新学習指導要領の改訂に伴い教材備品等の整備が必要になる。	3.2	予算も厳しいが必要な備品、教材の充実を図るべき。
教育振興事業(中学校関係)	84,882千円 ・市内中学校7校の振興運営を行う。特色ある学校教育づくり、総合的な学習充実、教育課程を実施することができた。 ・市内中学校7校の振興運営を行うことで、特色ある学校教育づくり、教育課程を実施することができた。(教材備品、各種検査料、教材備品購入、校外行事補助等) ・平成24年度からの新学習指導要領の改訂に伴い教材備品等の整備が必要になる。	3.2	それぞれ学校で工夫している。 必要な備品、教材の充実を図るべき。
小中学校体育大会等参加補助事業	15,786千円 ・文化部、体育部で参加する関東、全国大会に参加するための経費を補助することで、生徒に広くスポーツ実践の機会を与え、体力、技術の向上とスポーツ精神の高揚を図り心身ともに健康な生徒の育成ができた。 ・櫛形中学校駅伝部が、男女とも全国大会出場するなど輝かしい成績を挙げることができた。また、様々な部活動において好成績を挙げることができた。 (補助件数46件)	4.2	生徒たちの活動の成果への対応ができ、県、関東、全国大会の好成績につながった。この決算額が各種大会での生徒たちの成績のバロメータ。生徒の活躍に期待。

小項目	実績	評点	点検評価
学校給食 食材事業	389,745千円 ・児童生徒等に安心安全な食材をできるだけ安く購入する。 ・児童生徒が生涯にわたって健康で生き生きとした生活が送れるように、また、児童生徒の一人一人が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着けて自ら健康管理ができるよう学校給食を通して食育の推進に努めるとともに児童生徒への学校給食提供にあたり、地産地消の食材も取り入れながら安心安全な食材を安価で購入した。 ・食材価格も上昇で給食費の価格維持が困難な状況になり、2学期(8月徴収分)から各学校・施設の一食単価を20円値上げした。	3.4	地産地消の食材を採り入れたり、食材選びを工夫し、安全安心な給食作りを行っている。 今後の食材価格の動向で、給食費の値下げも考慮する。

中項目 政策:学校教育の充実 担当課 南アルプス教育推進課
 施策:生きる力を育む学校教育の推進

小項目	実績	評点	点検評価
外国青年 招致事業	35,988千円 ・学習指導要領の改訂により小学校に導入される「外国語活動の時間」の充実を図るため、市内の小学校の英語教育の均質化を視点に外国語指導助手(ALT)の配置を見直し、市内22校小中学校に再配置した。 ・配置の見直しに伴い、ALTの配置状況の調査を行い、学校の様子を把握した。 ・小学校教職員の外国語活動の指導力を高めるための研修・打ち合わせ会を行い、小学校外国語活動について理解を深めることができた。 ・JETから業務委託に徐々に切り替えており、8人中1人がJET、7人が委託契約によるALTとなった。 ・新学習指導要領完全実施(小学校平成23年度、中学校平成24年度)を見据えて、より計画的に適正な英語指導助手の配置を進めていく必要がある。現在は原則として小学校では週1日、中学校では学校規模により週3~5日ALTを活用した指導が行われている。	3.6	ALTの配置により国際理解教育を推進するとともに、児童生徒の英語コミュニケーション能力の育成を図ることができた。新学習指導要領の完全実施に向け、より計画的なALTの配置を進める必要あり。 現場からは増員の声があるが、財政的な理由等で実現していない。 ALTの質的な問題、学校の取り組みのバラつきなど学校間で格差がある。 ALTとの連携を密にし効果的な英語学習を期待。

小項目	実績	評点	点検評価
指定研究事業(学びの質を高める授業づくり推進事業)	<p>300千円(100千円×3校)</p> <p>・南アルプス教育の推進及び学校教育の充実を図るため、学びの質を高める授業づくり推進事業として指定校3校(白根百田小・若草南小・櫛形西小)を設け、南アルプス教育の方針に沿った授業づくりを推進した。</p> <p>・指定校は、習熟と暗記に傾斜した一斉授業の学習形態から、ペア学習やグループ学習を授業の中に取り入れ、子ども同士の自分の考えを表現するコミュニケーション機会を増やし、思考の多様性、人との関わり方・自ら考える力・生きる力を大切にしたい研究会を年間を通して実施した。また、その成果を公開授業研究会として、県内外の講師も招き評価をしていただきながら市内教職員に公開した。</p> <p>・今後も市内で指定を行い、学びの質を高める授業作り推進事業を推進していく。公開研究会については、市内の小中学校の連携を大切にし、異種校間の授業を先生方に見ていただき、広く情報交換を行っていく必要がある。</p>	3.8	<p>指定研究事業は学習の主体者である子どもの学び方を変えるため、教師の授業改善を促し、学びの質の高い授業作りにつながり、大きな成果を上げた。</p> <p>1年間の指定は期間が短すぎると感じる。予算との関係もあるが指定期間拡大も考えたい。なお、他の学校への研究成果拡大をどのように図るかが課題。</p>
地域ふれあい道德教育推進事業	<p>1,048千円</p> <p>・市内全小中学校を指定校とし、学校ごとに、特色ある道德教育の推進及び地域の人々とのふれあいを中心とした道德教育の取り組みを進め、本市の最重要課題の一つである「心の教育の充実」を図った。(50千円×22校)</p> <p>・子どもたちの保護者、祖父母に加えて、地域住民の道德授業への参加、参観者が増えており、地域の人たちとふれあう道德教育が行われるようになった。</p> <p>・取り組みの例としては、助産師の方から命の尊さを学んだり、長く自然保護活動を行っている方から南アルプスの自然のすばらしさや自然を愛護する心を学んだり、障害のある方々とのふれあいから思いやりの心や福祉について考える貴重な機会となっている。</p> <p>・この事業を中学校区ごとに小学校と中学校、小学校同士が連携するものに発展させ、より地域に根ざした教育を実現していきたい。</p>	4	<p>心の教育の充実を目指した本事業は、保護者や祖父母ばかりでなく地域住民の参加も増加し「地域の子どもは地域で育てる」という言葉どおり、地域ぐるみで子どもたちの道德的実践力を育てる事業となった。</p> <p>また、開かれた学校にもつながり効果は大きい。</p>

小項目	実績	評点	点検評価
「総合的な学習の時間」推進事業	<p>小学校 3,349千円(200千円 + 5千円 × 学級数) 中学校 2,693千円(300千円 + 10千円 × 学級数) ・各学校でテーマに基づきながら、生活や学びの中から個々にテーマを設置し、地域や校外へ出て取材や体験をし、得られた内容を地域や社会、自らの生活に還元した。 ・地域の歴史・自然・文化を大切にしながら南アルプス市を題材とした教材開発を行い、地域の人材の活用や教育委員会と連携した授業作りを行うことができた。地域の文化財を取り入れた授業では、県よりの最優秀賞の表彰も受けることができた ・今後も地域に根ざした教材開発を行い、子どもたちの体験活動を重視した総合的な学習の時間の支援を行っていききたい。</p>	4	<p>地域の歴史、自然、文化そして地域の人々の生活等、いわゆる地域に目を向けた体験学習を通して、地域への関心を高め自らの生活に生かす子どもたちの育成につながった。また、各校の特色づくりに貢献。しかし、学校間、学級間の格差もある。</p>
市内教職員研修事業	<p>100千円 ・南アルプス教育を推進するための教職員の能力や資質の向上のために時事的な話題や特色ある学校づくりのための講演会を実施した(参加者228人)。 ・教育系のコンピューターの整備事業に伴い、市内の教職員の技術の向上のためのコンピューター研修を、夏季休業中に行った(4回、111人)。 ・市内新任教職員を対象に市の自然・文化財などを広く知っていただく市内めぐりも夏季休業中に行った(23人)。 ・小学校外国語教育実施に伴う、英語研修を実施した(2回、181人)。 ・今後も南アルプス教育推進のために市内教職員の質の向上に役立つ研修会を積極的に実施していくことが大切である。</p>	4	<p>「教育は人なり」といわれるが、教師に人を得なければ学校教育の振興は期待できない。教職員の能力や資質の向上を図るための講習会、研修会の開催は大変有意義で成果があった。</p>
南アルプス市教育支援センター事業	<p>6,219千円 ・平成18年度より教育支援センターを開設した。適応指導教室では、学校復帰を目指し、家庭と連絡を取りながら支援を行った。特別支援教育相談室では、就学相談や学校や関係機関との連携を行った。教育相談では、教育全般の相談を受けることにより家庭や学校、関係機関との連携を図った。 ・センターの知名度や支援を必要としている人が増大しているため入室者や相談者が大幅に増加した(入級者数21人 31人、相談件数608件 943件)。 ・家庭、学校、関係機関との連携がより密になってきている。 ・指導の成果として、学校へ復帰した児童生徒が8人、高校へ進学できた生徒は11人となっている。 ・入室者や相談者が増えたことにより支援の体制が手薄になる可能性があった。特に適応指導教室では、子どもたちの勉強スペースが足りなくなったり、ボランティアを依頼したりと支援体制の充実が課題となった(補正予算により10月から3月まで支援センター教育指導員を1名採用し、対応している)。</p>	4.2	<p>教育支援センターの事業は大きな成果を上げている。適応指導教室における教育の成果として学校へ復帰、あるいは高校への進学等である。 教育指導員の配置数はこの教育の成果を大きく左右する要因の一つである。今後とも児童生徒の実態に対応した教育指導員の配置が必要である。 年々充実が見られるが、対象者は減らない。 支援を必要とする人を減らす努力も必要。</p>

小項目	実績	評点	点検評価
地域ぐるみの学校安全体制整備事業(スクールガードリーダーに関すること)	1,503千円 ・学校安全管理の一層の充実を図ることを目的に市内に4名のスクールガードリーダーの委嘱を行い、学校巡回指導・学校施設整備の点検・放課後における安全パトロール・通学路の安全点検・児童への安全指導を行った。 ・スクールガードリーダーと各地区の「子を守る会」「孫を守る会」等のスクールガードが連携しながら、効果的な学校・地域の安全管理を図ることができている。(スクールガード登録者数H19年度2199人 H20年度2366人) ・不審者情報をスクールガードリーダー及びスクールガードの方々に、迅速に伝えるため、メール配信事業の範囲に加えることを検討する。	4.2	ボランティア活動として地域住民の理解と協力を得る中で、子どもたちの登下校時の安全確保を図ることができた。 充実した活動である。

中項目 政策:学校教育の充実 担当課 教育総務課
 施策:学校施設の整備充実

小項目	実績	評点	コメント
耐震対策事業 (大明小学校特別教室棟耐震補強・大規模改造事業)	107,271千円 特別教室棟(RC造3階建、床面積1,079㎡)については、昭和55年3月に建設し築後27年が経過する。耐震強度Is値0.28であり、耐震強度が著しく不足していることから耐震補強工事を施すとともに、老朽化した施設全体の大規模改造工事を平成19・20年度の継続事業として、「安全・安心な学校づくり交付金」の交付を受け執行した。平成20年度分としては、総事業費の60%相当を実施した。 ・特別教室棟耐震大改工事 実施設計監理業務 ・特別教室棟耐震大改事業 建築主体工事 ・同 電気設備工事 ・同 機械設備工事 ・同 エレベータ設備工事	3.6	学校が安全安心な場所として機能することはとても大切。災害から子どもたちを守り地域住民の避難場所としての役割も重要。
耐震対策事業 白根飯野小学校屋内運動場地震改築事業	145,538千円 既存屋内運動場(S造平屋建・床面積700㎡)については、昭和50年に建設し築後33年を経過する。耐震強度Is値0.11と耐震強度が著しく不足していることから、市学校施設整備計画により2年間をかけて、まちづくり交付金事業として地震改築(S造平屋建・計画面積:998.96㎡)するものである。施設整備後の施設の活用については、社会体育への学校開放をするとともに、地域防災の拠点施設として活用するものである。平成20年度分としては、全体工事費の40%相当の決算額とする。 ・屋内運動場地震改築工事 工事監理業務 ・同 建築主体工事 ・同 電気設備工事 ・同 機械設備工事 ・同 擁壁工事	3.6	”

小項目	実績	評点	点検評価
学校施設整備事業経費(小学校関係、単独)	<p>16,899 千円</p> <p>学校施設における学習環境において、学校間の格差を是正し、施設のバリアフリーなど社会的ニーズに対応した、良好な教育環境を提供することができた。また、経年劣化に伴う施設整備の改修を実施し、施設の耐久性を向上させ良好な教育環境を維持することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白根東小2階障害児トイレ改修工事 ・白根東小3階障害児トイレ改修工事 ・若草小放送設備改修工事 ・南湖小プールフェンス改修工事 ・櫛形北小プール全面塗装改修工事 ・白根源小プール部分塗装改修工事 ・落合小オイル配管更新工事 ・小笠原小障害児トイレ改修工事 ・櫛形西小障害児トイレ改修工事 	3.6	
学校施設整備事業経費(中学校関係、単独)	<p>21,958千円</p> <p>学校施設におけるの学習環境において、学校間の格差を是正し、学校施設のバリアフリーなど社会的ニーズに対応した、良好な教育環境を提供するものである。また、経年劣化に伴う施設整備の改修を実施し、施設の耐久性を向上させ良好な教育環境を維持することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白根御勅使中ホッケー場防球ネット整備工事 ・白根御勅使中雨水排水施設改修工事 ・若草中屋体ハンガードア改修工事 	3.6	
中学校施設整備事業経費(補助)	<p>223,912千円</p> <p>櫛形中学校大規模改修事業210,829千円 管理・普通教室棟及び技術科棟については築後24年、特別教室棟にあっては35年が経過していた。校舎全体に老朽化が進み、雨漏りや給排水、放送設備等に故障が発生していたことから、文部科学省が所管する「安全・安心な学校づくり交付金」の交付を受け、大規模改造事業として内外装の改修を行い、建物の耐久性を確保するとともに、変化する教育形態に対応するよう大規模改造事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模改造第1工事 特別教室棟・リソース棟 H20(60%相当) ・同 太陽光設備・グラウンド改修 H20工事 <p>八田中学校バリアフリー化改修事業13,083千円 肢体不自由児の進学に合わせ、学校施設のバリアフリーなど社会的ニーズに対応した、良好な教育環境を提供するものである。</p>	3.6	

小項目	実績	評点	点検評価
地域活性化・生活対策臨時交付金小学校施設整備事業	<p>0円</p> <p>「地域活性化・生活対策臨時交付金」により、安心・安全な暮らしの実現及び防犯・防災強化を図るため、教育施設の耐震化対策事業等施設整備を行う。平成20年度については事業着手せず次年度へ繰越を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南湖小学校屋内運動場地震改築事業 実施設計業務・事業用地購入・道路付替え ・白根源小学校屋上防水改修工事 ・小笠原小学校視聴覚室屋根防水工事 ・八田小学校正門・西門門扉設置工事 	3	
学校給食施設整備事業	<p>6,904千円</p> <p>・学校給食施設の備品において老朽化が顕著となっているため、緊急性を優先して、単独校・給食センターの備品を計画的に整備・充実した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・櫛形西小・豊小 スチームオーブン 櫛形中・大明小 冷蔵庫 若草給食センター 牛乳保冷库他整備した。 ・今後随時整備をしていく必要がある。 	2.8	<p>優先順位をつけ、計画的に整備することができた。特に単独校方式の施設においては備品の老朽化に伴う更新だけでなく施設の老朽化にどう対処するか課題である。</p> <p>老朽化対策とともにセンター方式への移行も急務。</p>
学校給食施設維持管理事業	<p>229,600千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター3箇所(白根八田・若草・芦安) 自校式8箇所(小笠原小・櫛形北小・櫛形西小・豊小・落合小・甲西中大明小・南湖小・櫛形中)の維持管理費 ・学校給食の質の維持及び向上を図るため施設設備の維持管理に努めた。また、食中毒を防止するため施設や職員の衛生管理に万全を期した。 ・今後も引き続き食中毒防止に努めていく。 	3.2	

中項目	政策：青少年の健全育成 施策：健全育成支援体制の強化充実	担当課	教育総務課
小項目	実績	評点	点検評価
芦安南アルプスチロル学園運営事業	<p>20,494千円</p> <p>芦安地区の子どもたちと都市の子どもたちの交流事業として、また過疎地域の活性化のため小学校4年生から中学校3年生までの寮生7名(H20年度、うち2名中途退園)を受け入れている事業。</p> <p>ハイキングや登山体験のほか、四季折々の地域の祭りへの参加や料理体験、など毎月多くのイベントを実施。芦安小中学校の児童生徒数の維持など、その役割は小さくなってきており、今後のあり方は課題。</p> <p>・歳入：入園負担金、学園使用料等3,957千円 ・歳出：臨時職賃金や賄い材料費等20,494千円</p>	3	<p>寮生に寄り添った諸行事等の実施は、一人ひとりの子どもたちの琴線に触れるものであり、非常に良かった。</p> <p>なお、チロル学園の事業については、その目的等を含めて、今後方向性を議論していく必要がある。</p> <p>交流事業の実績が形として見えない。地域の実情を考えながら実施。</p>

中項目	政策：青少年の健全育成 施策：健全育成支援体制の強化充実	担当課	生涯学習課
小項目	実績	評点	点検評価
青少年健全育成推進事業	<p>4,903千円</p> <p>・青少年を有害な環境から守るために、青少年育成南アルプス市民会議と協力し市内有害図書自販機・ゲームセンターの現地調査と書店の指導等を行い環境浄化に取り組んだ。また、チラシや広報誌を全戸配布し、家庭や地域に青少年の心の成長・地域活動支援や非行防止を呼びかけ、青少年の健全育成の推進に取り組んだ。</p> <p>・八田地区と甲西地区に設置されていた有害自販機3台は撤去されたが、未だ4地区に12台設置されている。今後も市民の協力を得る中で撤去に向けて取り組んで行く。</p> <p>夏の青少年生活指導要項… 7月中旬 冬の青少年生活指導要項… 12月中旬 広報誌「南アルプスの青少年」… 3月中旬 「家庭の日」「青少年を育む日」 標語の部最優秀作品のチラシ… 3月中旬全戸配布</p>	3.2	<p>有害図書自販機の撤去に向けての取り組みも市民の協力を得る中で徐々に成果が上がっている。特に、自販機設置場所の所有者への理解を得るための取り組みを行った。全戸配布の広報誌等は市民の青少年育成に向けての意識を喚起した。</p> <p>地域と学校と行政の連携で子どもたちにとって安心できる環境づくりを行っている。</p>
ジュニアリーダー養成事業	<p>934千円</p> <p>・学区内を超えた仲間と、団体活動や集団生活を通して自立・協同・奉仕の精神を体験的に学習し、ふだん学校や家庭では得られない経験を体得し、地域の中で指導力・行動力を持つ頼られるジュニアリーダーの養成と確保を図った。</p> <p>研修場所：山梨県立八ヶ岳少年自然の家(1泊2日) 1班 8月11日(月)～12日(火) 2班 8月20日(水)～21日(木)</p> <p>参加児童：市内小学6年生 129名 リ-ダ-：ジュニアリーダー養成過程を終了した中学1・2年生45名</p>	3.8	<p>地域の中で指導力、行動力を持つジュニアリーダーの養成は重要である。特に研修経験者の中学生がリーダーとなり小学生を指導することに大きな意味がある。成果は大きい。しかし、地域への還元が見られない。</p>

小項目	実績	評点	点検評価
各種子ども祭り開催事業	2,033千円 ・祭りをとおして遊びの中で、異年齢の仲間や地域の大人との交流や親子の絆を深めるとともに、地域の歴史文化や芸能を伝承することを目的に子ども祭りを開催した。 甲西子どもまつり7月24日(木)参加者1,700人 芦安子ども夏祭り8月24日(日)参加者150人 白根青少年桃っ子祭り11月3日(月)参加者1,500人 櫛形世代間交流フェスティバル11月24日(土)参加者300人 若草三世代ふれあい祭り12月14日(日)参加者200人	3.8	どの祭りも参加者、参観者が多く盛況であった。地域の特徴を生かし地域に根づいている。祭りを通して子ども同士、大人と子どもの交流を深めている。 また、地域の伝統文化を理解すると同時に継承する機会にもなっている。継続が望まれる。 社会福祉協議会との連携も視野に入れる。
親子ふれあいハイキング運営事業	80千円 ・親子が一緒に森の中をハイキングしたり工作体験等を行うことでふれあいを大切にするとともに、親子間や友達に対する「思いやり」や「支えあう心」などを育み、他の友達(親同士含む)との交流を広げることができた。 実施日:平成20年10月13日(月) 場 所:信州スカイパーク及び国営アルプスあずみの公園他 参加者:16組 47名	3.2	
子どもクラブ親睦球技大会開催事業	453千円 ・スポーツを通して、健全な体と精神を養うとともに、子どもクラブ員相互の親睦を深めることができた。また、中学生が小学生の面倒を見たりアドバイスすることで指導力や協調性を学ぶことができた。 開催日:平成20年8月2日(土)～3日(日) 男子:ソフトボール(16チーム) 女子:ミニソフトバレーボール(18チーム)	3.4	チーム編成は小中学生の混合である。このことにより中学生にリーダーとしての指導力を発揮させることができた。子どもたちの交流、親睦につながった。 参加単位団が年々減少。 夏休みの子どもクラブ活動で異年齢の子どもたちが絆を深めている姿は美しい。指導者にも感謝。
放課後子ども教室推進事業	967千円 ・大明小学校の児童を対象に、大師公民館を安全・安心な子どもの居場所作りの活動拠点とし、毎週水曜日に地域の方々の協力を得て放課後子ども教室を実施している。異年齢の子どもたちが自由の遊んだり、スポーツや工作、体験活動等を通じ友達を増やし、また、地域の大人と交流することにより、人づき合いや自然にルールを身につける力を育てている。 ・今後も地域が一体となって、子どもたちを見守ることのできる環境づくりを推進する。 H20年度48回開催 1回あたり平均30名の参加実績	4	なかなか地域への広がりが見られないが、意義ある活動。

小項目	実績	評点	点検評価
成人式挙行事業	2,602千円 ・次代を担う新成人の門出を祝福するとともに、祝い、励まし、新成人たちにも成人としての自覚と行動をあらためて意識する機会として成人式を挙行了た。 実施日:平成21年1月11日(日) 会場:桃源文化会館 成人者:908名(参加者756名)	3.2	成人式のあり方について検討の必要あり。 成人の更なる自覚(感謝の心など)を高める方策も必要。
青少年健全育成推進団体補助事業	5,245千円 ・次代を担う青少年の健全育成を図るために、多様化する青少年問題を考え様々な活動に取り組んでいる諸団体に対し補助を行った。 補助金交付団体 ・青少年育成南アルプス市民会議180千円 ・6地区青少年育成地区民会議4,579千円 ・市子どもクラブ指導者連絡協議会146千円 ・南アルプス警察署管内少年補導員連絡協議会340千円	3.2	それぞれの組織の特徴を生かし、連携を密にする中で青少年の健全育成に取り組んでいる。 各地区育成会を中心とした足元の実践を大切にしていける。

中項目 政策:青少年の健全育成

施策:健全育成支援体制の強化充実(交流活動の推進)

担当課

生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
国内姉妹都市交流事業(石川県穴水町)	729千円 ・友好姉妹都市である石川県穴水町との交流を図るため、市内の児童を連れて穴水町を訪問した。 訪問期間 3泊4日 訪問児童数 20人	3.6	交流先の地域の様子を具体的な体験を通して知り、地域の違いを理解したり友情を深めることができた。 地域の文化振興にも役立っている。どのような効果があったのかが大事。
国内姉妹都市交流事業(北海道岩見沢市北村)	180千円 ・友好姉妹都市である北海道岩見沢市北村との交流を図るため、北村の児童の本市受入れを行なった。 受入れ期間 2泊3日 受入れ児童数 34人	3.6	友達を受け入れる計画を立案し、具体的に展開できた。また、姉妹都市の子どもたちと交流を深めることができた。 残念だが、20年度で終了した。
国内姉妹都市交流事業(北海道津別町)	211千円 ・友好姉妹都市である北海道津別町との交流を図るため、津別町の児童の本市受入れを行なった。 受入れ期間 2泊3日 受入れ児童数 33人	3.6	さまざまな交流を通して他の地域の文化や歴史を学び、自分たちのふるさを見つめ直しよい機会。
国内姉妹都市交流事業(東京都小笠原村)	1,538千円 ・友好姉妹都市である東京都小笠原村との交流を図るため、市内の生徒を連れて小笠原村を訪問した。 訪問期間 5泊6日 訪問生徒数 19人	3.6	課題もいくつか見受けられるが、それらを克服してさらに発展、充実を。

中項目	政策:文化づくりの推進 施策:地域資源を活かした地域文化の振興	担当課	生涯学習課
小項目	実績	評点	点検評価
文化振興 推進事業	10,431千円 ・市民の芸術文化の意識の高揚と地域文化の充実と拡大を図るため市民文化祭及び各種事業を開催した。 ・文化講演会(演者:松平定知 参加者380人)・市民文化祭・ふるさと再見ガイドツアー・書道展・囲碁・将棋大会等 ・社会教育団体(文化協会、太鼓保存会、各地区文化祭実施団体等)へ補助金を交付し、地域の文化振興の推進を図った。 社会教育団体 H20年度末58団体	3.4	地域文化の振興に役立っている。

中項目	政策:文化づくりの推進 施策:地域資源を活かした地域文化の振興	担当課	文化財課
小項目	実績	評点	点検評価
文化財保 護事業	5,339千円 豊かな自然とともに貴重な文化遺産を後世に残すため、市内の指定文化財の保護を行った。また、学校教育や生涯教育と連携しながら文化財の活用及び広報誌等を通じて啓発事業を実施した。 実施事業 ・国史跡 将棋頭・石積出、県指定物見塚古墳の維持管理(草刈等) ・県指定天然記念物 鏡中条ごよう松・宝珠寺の松の害虫防除事業補助 ・文化財防火デーの一環として、諏訪神社(芦安地区)、長谷寺(八田地区)で防災訓練 ・指定文化財管理報償金の交付(128件) ・長谷寺本堂(国指定)防災設備点検委託補助 ・国指定文化財三恵の大ケヤキに薬剤散布及び周辺整備 ・仏像等悉皆調査(継続事業)20年度 櫛形地区 ・教育普及事業実施 実施事業137事業(前年度118事業) 参加人数7,184人(前年度5,775人) 特に学校関連事業回数が増えている。 ・普及啓発事業実施 広報南アルプス掲載9回 南アルプスふるさとメール掲載19回 CATV放映6回 ・インターシップ受け入れ事業実施 大学生5名 高校生1名	3.8	地域の文化財を採り入れた授業では、出前講座(授業)を積極的に行い、子どもたちに地域の文化財について興味、関心を持たせることができた。今後も継続したい。 担当も精力的に取り組んでいる。 文化財保護は大変重要、大いに実施。

小項目	実績	評点	点検評価
埋蔵文化財調査事業	<p>36,063千円</p> <p>埋蔵文化財は、郷土がどのように歴史をたどって成り立っているかを知る重要な手がかりとなる。本市の埋蔵文化財についても同様で、重要であり発掘調査と保存に努めている。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将棋頭史跡用地取得事業(面積3,543㎡):今後、史跡の保全、公開、活用するための計画を策定していくこととなる。 ・ふるさと文化伝承館整備事業:重要文化財展示用備品購入 展示室防火扉設置 防火パネル設置 ・発掘調査事業:市道下市之瀬上宮地線 後田堰取水口堤防遺跡 ロタコ横穴壕群の分布調査及び測量調査 ・埋蔵文化財調査及び照会事業:遺跡有無等の照会576件(前年度718件)、試掘確認調査実施29件(前年度25件)、工事立会実施81件(前年度78件)、本調査実施 1件(前年度2件) ・体験学習事業:史跡めぐり、土器造り、昔の暮らし体験、火起し体験等 ・遺跡説明板設置事業:住吉遺跡、豊小学校遺跡、椿城跡 ・埋蔵文化財等広報資料作成事業:遺跡で散歩、弘法大師伝説ゆかりの史跡を歩く 	3.4	
文化財調査事務所管理費	<p>7,641千円</p> <p>文化財調査事務所は、発掘された出土品を保管あるいは展示し、また、発掘調査された遺跡の報告書作成及び出土品の整理を目的とし、特に、ふるさと文化伝承館については、市民に文化財を展示公開できるよう整備を進めており、また、教育普及授業にも利用できるよう事業を実施した。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと文化伝承館の維持管理及び文化財を展示公開するための事業 今後、PR、イベントの実施等を含め事業展開を検討することとなる。 ・櫛形調査事務所の維持管理事業(本年度で終了) ・甲西調査事務所の維持管理事業(継続) 	3.4	
安藤家住宅管理費	<p>7,505千円</p> <p>平成20年4月1日より保存修復を完了した「安藤家住宅」が県から南アルプス市に譲与され、管理運営を行っている。</p> <p>実施事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安藤家一般公開事業:観覧者数5,626人(前年度は改修工事のため閉館)観覧料1,115千円 ・展示企画事業:端午の節句飾り展、安藤家秋祭り等8件 ・各種催事事業:読み聞かせ、紅葉ライトアップ等8件 ・安藤家住宅総合調査事業 ・安藤家の維持管理事業 	3.6	<p>管理運営に難しさがあるが、展示企画事業、各種催事事業の実施については、安藤家独特の雰囲気を生かす中で展開され相乗効果が大きかった。</p> <p>今後とも有効的に活用を図っていく。</p>

中項目		担当課	
政策:文化づくりの推進 施策:芸術・文化施設の充実		生涯学習課	
小項目	実績	評点	点検評価
桃源文化 会館維持 管理事業	106,526千円 ・市内の芸術文化の拠点施設である桃源文化会館の施設維持管理及び事業運営の推進を図り、市民が充実した文化活動が行なえるように努めた。 ・指定管理委託料20,796千円 ・人件費補助45,242千円(事務局長1名、職員7名) H20年度述べ利用者106,526人	3	

中項目		担当課	
政策:文化づくりの推進 施策:芸術・文化施設の充実		市立美術館	
小項目	実績	評点	点検評価
美術館運 営事業	32,736千円 ・春仙美術館26,461千円 ・白根桃源美術館6,275千円 入館者数等が低迷状態になっている美術館のより良い運営の方策を探るために、専門委員会(5名)1回、協議会(11名)1回を開催し、指定管理者制度導入について検討したが、決定には至らなかった。 2館それぞれに設置時の経緯や、その後の収蔵作品の状況は違うものの、複雑で多元的な現在社会において、豊かな感性や創造性、人間性を育む場である美術館の存在は、なお重要である。このことから、2館の特徴を活かした優れた芸術文化に触れ合える場、市民が発表できる場として活用している。	3	春仙美術館と白根桃源美術館の一体化も検討を。
美術館常 設展事業	8,464千円 2,800余点の収蔵作品を用いて魅力ある施策を展開するためには、美術館活動の根幹が企画力であることを認識しながら常設展の充実を図り、市民に鑑賞を呼びかけた。 春仙美術館 ・展覧会日数:175日間 ・入館者数:2,455人 ・入館料:177,110円 ・春仙美術館主催事業版画講座2日間で16名 白根桃源美術館 ・展覧会日数:276日間 ・入館者数:4,096人 ・入館料:193,260円 ・付属展示室貸出し日数:107日間 ・入館者数:2,022人	2.8	美術館は市民が優れた芸術文化に触れ、豊かな感性や創造性、人間性を育む場所であることから、目指す美術館像の具現化のため全体構造を再確認し、具体的な取り組みを推進していく。 その糸口として入館者数が低迷しているため、その要因を明らかにし、対策を立てることが喫緊の課題である。特に、市民の鑑賞者が少ない。

小項目	実績	評点	点検評価
美術館企画展事業	<p>23,136千円 多くの市民に優れた作品を鑑賞できる企画展を開催した。 ほぼ目標の入館者数であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春仙美術館企画展事業「中国現代美術の域展」 開催日数:32日間 入館者数:3,120人 入館料:161,600円 美術講演会入館者数:98人 ・春仙美術館企画展事業「池田満寿夫知られざる全貌展」 開催日数:44日間 入館者数:4,309人 入館料:658,200円 美術講演会入館者数:128人 佐藤陽子トーク&ミニコンサート入館者数:223人 	3.2	<p>企画展では、多くの市民が優れた作品を鑑賞することができた。</p> <p>企画展と常設展では、それぞれ意図するところに違いはあるが、相互補完により目指す美術館像に近づきたい。</p> <p>企画展から多くのことを学びたい。</p> <p>具体的な充実策が見えない。</p>
春仙美術館施設整備事業	<p>515千円</p> <p>美術館は美術作品やそれに関わる資料、情報を集め保存し、研究公開しながら後世に伝えていくという使命をもっている。収蔵作品の展示や、企画展教育普及活動をはじめとする様々な事業を通じて、市民と交流をしながら文化創造の拠点であるための、施設機能の維持管理に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調機器の改修 	3	

中項目	政策：スポーツレクリエーションの振興 施策：スポーツレクリエーション活動の推進	担当課	生涯学習課
小項目	実績	評点	点検評価
自主活動 団体支援 事業 (南アルプ ス市体育 協会補助)	76,877千円 ・南アルプス市の体育・スポーツの普及発展並びに市民の健康増進、体力向上を図っていく中心的な役割を持つ南アルプス市体育協会に、事業・運営・人件費の補助を行った。同協会も経費節減に努力している。 ・運営費補助5,049千円(事務機器賃借、消耗品、各種手数料) 運営費対前年 1,165(事務機器再リース等による経費削減) ・事業費補助17,540千円(市民体育祭、スイミングフェスティバル、チビリンピック等) 事業費対前年 699(事業経費削減等による経費削減) ・人件費補助54,288千円(事務局長1名、職員9名) 人件費対前年 2,188(休日勤務を代休扱い等による経費削減)	3.6	市のスポーツ振興に効果があった。
自主活動 団体支援 事業 (県外ス ポーツ大 会出場費 補助)	699千円 ・県外スポーツ大会に出場する南アルプス市体育協会加盟の個人・団体に対し、交付要綱に基づき補助をする。 ・平成20年度要綱改正【主な改正点：1/3補助を1/4補助に減額、予選免除競技には支給しない等】により補助金交付額が、前年対比3,606千円の減となる。要綱改正によるトラブルも無く適正に処理できた。 補助金交付件数 H19年度 29件 H20年度 13件	3.2	補助率は低下したが活用されている。
体育指導 委員活動 事業	8,240千円 ・スポーツ振興法で規定されている公的な社会体育指導者である体育指導委員72名を委嘱し、誰もが気軽に参加できる軽スポーツ(スポレック)の普及を図るとともに、ウォークラリー・スポーツラリー・ドッジボール大会等を開催し、市民の健康増進・体力向上の一役を担った。自主事業(高齢者を対象とした健康教室)も含めて活発な活動を展開している。 ・スポレック普及教室開催回数24回 ・各種大会参加者数ウォークラリー300人、スポーツラリー200人、ドッジボール128人 ・健康教室16回(社会福祉協議会からの委託)	3.8	体育指導委員の事業として市民の健康の保持増進や体力の向上、心の交流を図るためのスポーツレクリエーション活動は多数の参加者があり盛況だった。 また、参加者からの評価も高く、事業効果は大である。 事業が拡大しすぎたきらいもある。 体育指導委員の活躍で盛況。

小項目	実績	評点	点検評価
スポーツイベント開催事業(桃源郷マラソン大会)	16,635千円 ・県内外より約6000人の市民ランナー参加により第6回桃源郷マラソン大会を開催した。マラソンプームと事務局の努力により微増ではあるが参加者が増えている。現状の組織体制を維持しながら、限られた予算内で参加者を増やしている努力は評価できる。 補助金 H19年度 18,042 H20年度 16,635 1,407削減。協賛企業の増加等による自主財源確保により補助金が削減できた。	3.8	事務局は大変な苦労もあるが、リピーターも多いということから十分参加者の期待に応えている事業である。今後も継続して取り組んでいきたい。 参加者を増やす努力がある。
スポーツイベント開催事業(市小中学校ホッケー交流大会)	4,218千円 ・市のスポーツでもあるホッケー競技の普及拡大及び技術力の向上を目指し、年間を通してコーチを派遣している。小学生交流大会を開催し、男女各優勝チームは全国大会に出場した。市内の小中学校にホッケーの普及を図っているが、なかなか普及浸透に至らないのが現状である。 コーチ派遣状況:白根地区4小学校延べ274時間、同2中学校延べ763時間	3	ホッケーの普及は困難だが、この大会を契機に中学、高校、大学、そして社会人としても活躍している選手も多く取り組みの成果は大きい。しかし、普及の面では努力の成果が見られない。地道な取り組みを継続。
スポーツ活動活性化事業(各種スポーツ教室開催)	7,936千円 ・年2期に分け幼児から高齢者までの初心者を対象に、体力向上・健康増進・生きがい作りを目的に各種スポーツ教室を開催した。また、夏季(スイミング)冬季(スキー)の教室も開催し、14種目・延べ参加者3000名となった。今後も種目を精査しながら市民の要望に応じていく。	3.8	市民から期待されている。

中項目 政策:スポーツレクリエーションの振興
施策:スポーツレクリエーション施設の充実

担当課 生涯学習課

小項目	実績	評点	点検評価
体育施設維持管理事業(指定管理に伴う委託事業)	43,181千円 ・白根B&G海洋センター(フィッツスポーツクラブ) 甲西市民総合グラウンド他1(トラベツスポーツクラブ) 櫛形総合体育館他10(南アルプス市体育協会)の社会体育施設の管理業務を委託した。 各体育施設指定管理費用 白根B&G海洋センター26,000千円(フィッツスポーツクラブ)、甲西市民総合グラウンド他1施設2,800千円(トラベツスポーツクラブ)、櫛形総合体育館他10施設14,381千円(南アルプス市体育協会)	3.2	
体育施設維持管理事業(経常的な維持・修繕)	9,609千円 ・主な修繕として、白根B&G海洋センターボイラー修繕(1,418千円)・芦安プール可動床修繕(888千円)・若草体育館トイレブス(515千円)・櫛形中学夜間照明(987千円)・若草グラウンド防球ネット(693千円)・他10施設。 ・老朽化が進んでいるため、早めの施しが必要となるので定期的に施設の点検・利用者の要望(苦情)等を反映していきたい。	3.4	